



# 連盟だより

<http://sites.google.com/site/jcfn1/>

2010年1月1日発行 Vol.4



2010年  
元旦

## ❖ 新年のご挨拶

北カリフォルニア日本合唱連盟の皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年は、4月の外山先生講演会、9月の親睦コンサートと2回のイベントを開催することができ、皆様からも良いご評価を頂きましたこと、感謝申し上げます。

2005年5月6日のアラウンドシンガーズ演奏会から早5年が経過し、本年2010年4月には、日本より外山浩爾先生をお迎えしての日米合同合唱祭を開催する運びとなっております。本年は咸臨丸来航150周年であることから、サンフランシスコベイエリアの日系コミュニティを中心に各種の記念イベントも企画されており、サンフランシスコさくらまつりもその一環として、日本から各種の団体を招聘してのパフォーマンスのステージを開催する予定です。この日米合唱祭もそのさくらまつりのイベントの一部となっております。今後、咸臨丸150周年記念イベントのアナウンスを何度もお耳にするとと思いますが、私たちもこの一端を担っていることを、是非お知りおきください。またこの合唱祭には日本から60名、また南加日系合唱連盟から40名もの参加が予定されており、本連盟からも多数の参加をお待ちしております。演奏会の詳細につきましては、各団体の連盟ボードメンバーにお問い合わせください。

本連盟は結成満5年となり、各団体の皆様にも連盟の活動を深くご理解いただけるようになってまいりました。今後の連盟の一層の発展を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

連盟会長 賀川正人

## ❖ A Happy New Year!

Choral Cosmoは新年早々に有力なメンバーふたり(ソプラノとテナー)を、帰国のために失ってしまいます(おふたりは、コスモ・ジャパンでご活躍を続けられると思います)が、それにもめげず2月20日定演に向けて頑張っています。

昨年より、Community Opera Chorusや、Aldersgate 合同合唱なども始まり、歌声の輪がますます広がっていることを心から嬉しく思っています。

私の演奏活動としましては、7月11日(大阪)に「トスカ」、Sopianos Fall Concert 2010、「蝶々夫人(3月、2011)」などをひかえています。

新年も、みなさまにとって実り多い年でありますよう。

Choral Cosmo 香川恵子

## ❖ 新年あけましておめでとうございます。

去年、詩人のまどみちおさんが100才のお誕生日をお迎えになりました。そこで、アンサンブル四季とサンフランシスコフォレストクワイヤでは、まどさんの詩につけられたいくつかの曲を歌い始めました。まどさんが15年前、国際アンデルセン賞を受賞なさった時のお言葉です。「まもなく85歳。私は激減した自分の脳細胞に絶望もしない。逆にそれによってどれほどの仕事が可能か興味津々なのである。自分を実験台にして面白がりながら、しかし懸命に小さな地平を切り開くことを楽しみにしている」私は現在のまどさんの半分にも満たない年齢ですが、このような尽きぬ好奇心を持ちながら、合唱の喜びを今年も追求してまいりたいと思います。これからどうぞよろしくお祈り申し上げます。

Chorale May/アンサンブル四季/SF Forest Choir  
三浦るり子

## ❖ 北カリフォルニア日本合唱連盟の皆様。

新たな年が始まりました。今年は、日本から外山先生と大合唱団をお迎えしての「桜祭り」への参加という、大きなイベントが控えております。各団がベイエリアに散らばっての練習を重ね、海を越えた日本からいらっしゃる皆様と「歌」によって一つになれる瞬間は、きっとゾクゾクする音楽になることでしょう。皆様とその瞬間を過ごさせて頂けます事に感謝致します。北カリフォルニア日本合唱連盟及び各合唱団の益々のご発展と、皆様のご健康ご多幸を祈念致しております。

Harmony '84 平野孝榮

## ❖ 新年おめでとうございます。

さくらコーラスのメンバーは1月9日に恒例のお正月パーティーをして、お雑煮、おせち、おぜんざいなどの持ち寄りのお昼食を頂き、皆で年の初めを祝いました。



今年は2月に小さなコンサート、そして6月には定例の隔年のコンサートがあるので、皆、張り切っています。この定例コンサートの目玉は日本の卒業式で最近よく歌われている「旅立ちの歌」です。声を出すこと、そしてよい仲間との語らいは健康にとってもよいので、私達はこの集まりをととても大切にしています。

この間皆様の歌声を聞いてから、もっと上手に歌いたいと、皆意欲が出て来たようです。色々ご用意下さってありがとうございました。本年もそれぞれのグループにとって、よきお年でありますよう、お祈りしております。

さくらコーラス 榊原晴子

## 心の故郷、縄文時代を省みて

Chorale May/Ensemble Shiki 菅野琢雄

初冬に時たま訪れる小春日の柔らかい日の下で、お百姓さんが麦を踏んでいる光景を歌っている皆さんが良くご存知の歌「冬景色」があります。晩秋に蒔かれた麦は茎葉ばかりが育ちすぎると根の発育が悪くなる恐れがあります。こうして茎葉を踏みつけて茎葉の成長を一時止めその間麦の根の発育を助長することで、これからやって来る霜に麦が強生き延びられる様にしてあげるのです。昔は地下足袋を履いたお百姓さんがゆっくりゆっくりと麦を踏んでいた光景が見られましたが子供心にも寂しさと美しさを感じたものでした。黙々と麦を踏んでいるお百姓さんを見ると、宮崎県の有名な民謡「刈干切歌」をおもいだします。“此処の山の刈干はすんだよ、明日は田圃で稲を刈ろうかよ”と毎日々々黙々と働くお百姓さんの姿を歌っています。民謡そのものが哀調を帯びた美しい歌ですが、ちょっと近代的なピアノ伴奏の付いた歌にもなっています。この麦踏は縄文時代からお百姓さん達が培ってきた知恵の一つです。

そうなんです、昔中学校や高校で社会科或いは日本史で習った縄文人は、狩猟採集を主にしたボロボロの貫頭衣で身を包んで、ひげや頭の毛をぼうぼうと伸ばした言わば野蛮人の集まりだったと教わりました。ところがどっこい、例えば鳥浜の遺跡から出てきた5千年ほど前の縄文時代の人々の生活の記録を解読すると、先ずクリや粟、後期には麦や稲の栽培をしていて、既にクリの灰汁抜き知識を持ち、季節の旬の味、例えば油が乗った頃のマグロが取れる時期には二人用の小船で外海まで乗り出してマグロをとり、瓢箪や紫蘇の妙味を楽しみ、鹿のような動物を殺す時もこれからその種族の繁栄を齎すメスや子供を殺さず、既に怪我をしていたようなオスや私のような年寄り鹿を捕って食べていたようで、エコロジーを弁えた文明人だったことが分かってきています。これは別の遺跡から出てきたものですが、体の不自由な顔が醜くゆがんだ16歳位の女性の骨が家族の骨の真ん中に温かく埋葬されている事などから、縄文人達の優しさを感じます。ひょっとしたら、今我々が歪んだ顔と思ふ顔も彼等にとっては動物や自然と同じように特異には見えなかったのかもしれませんが、彼等にとって動物も含めて、生きとし生けるものは全て平等で、共同体の一員でした。動物やなくなった先祖の人々との会話は彼等の日常のものでした。北海道の民謡「ソウラン節」は“沖の鷗に潮時聞けば、私発つ鳥波に聞けチヨイ…”と歌っていますが、大分離れた廣島の民謡「音頭の舟歌」にも殆ど同じ台詞がでてきます。その昔この歌を歌い出した漁夫達は鷗に潮時を聞ける能力があり、この二つの民謡には縄文人の心と呪文的掛け声がいまだに残っています。日食でだんだんその光りが弱まって行く太陽にアイヌの人々は“早く元気になって下さい”と歌いました。太陽は人間の仲間だったのです。



紀元前約1万4千年から2千年頃迄の長い間この日本列島に生息した縄文人達はそれ以前からいたと思われる人々(約紀元前2万4千年に移動してきた、原縄文人やスラブ語やトルコ語を話していた人々)とも平和に共存しており、紀元前約2千年前に渡来して来た弥生人たちの武力的圧力にもめげず、日本の北や南の辺地に押しやられながらも、普通の自然との共存生活を維持したようです。勿論其の中には蝦夷と呼ばれた東北を中心とする部族の抵抗、九州あたりでの隼人の抵抗もありましたが、彼等の抵抗は侵略的なものでなく、今までの生活を維持すべく止む無く中央政府に楯突いたものでした。私が第二次世界大戦中に過ごした秋田県では(正確に云うと東北の各県の)いたるところに蝦夷の戦士達が使用したベトナム兵と同じようなトンネルの連絡逃避網が各地を結び、私が疎開した山奥の田沢という村の其の又山奥には鬼が住んでいた洞窟、即ちこのトンネルの出口が今でも残っています。子供たちの安全の為に、今でも鬼が住んでいるとバツパー(お婆さん)が我々がこの洞窟に近づかないよう怖がらせてくれたものです。民謡・童謡の「桃太郎」に出てくる鬼達も多分政府に楯突いた地元の部族であったろうと容易に想像できます。犬猿雉は地方の部族で政府の圧力に服して雇われた、この当たりの地の利を弁えた民族だったのでしょう。黍団子一つで戦争に駆りだされていたわけです。私の父も母も秋田のこの当たりの生れでしたから、私が長いものに巻かれることが大嫌いな遺伝子をこの鬼達から受け継いだようです。

先日サンフランシスコの「のびる会」で、羽生淳子博士の「三内遺跡・縄文文化の盛衰」というお話を伺いました。青森の三内遺跡にひろがる大きな村、その中には高床式の倉庫や六本のクリの大木の柱で作られた高い櫓跡のようなものまであり、推定人口500人程度の大村落でしたが、ある次期に急にその村から住宅や陶器のような遺物の数が減少して、その当時起こったこの地方の寒冷化がこの部落の衰退の理由の一つとして考えられるとのことでした。このお話を聞きながら素人の私にはちょっと違う縄文文化衰退の原因があったのではと思ひ浮べたのですがこれは又の機会にご紹介いたします。

色々な意味で縄文文化の再評価する時が来ています。多くの学者達はこの頃から日本に確りとした根をおろし、押し寄せてきた何度かの異国文化や言語の波にも耐えて、大和言葉の根源をこの縄文人達が築き守り挙げたと考えています。ドイツ人が彼等の祖国語である古ゲルマン語に触れるときに経験するあの懐かしさ、暖かさを我々日本人は大和言葉を聞く度に経験するのです。紀元前2千年前ごろに大量に日本に移動して定着した弥生文化の担い手は殆どが今で言う韓国人と中国人でした。当然彼等は日本にたどり着く前までは自国語を使用していたでしょう。文字を使っていたでしょう。でも日本に定着して、彼等は自国語を原住民であった日本人に強制しませんでした。何故でしょう。一つには日本のこの美しい自然の中から生まれ出た魂としての言葉の方が彼等の自国語より心を動かすことを悟ったからではなかったか



と思うのです。暑いという表現は最近では物凄く暑い、結構暑い、一寸暑い等と暑さを限られた形で表現しようと努力しますが、渡来民族は縄文人のそんないい加減な形容詞や表現に頼らない自由自在の意志伝達が可能な言霊をもった大和言葉に惹かれたからではないでしょうか。言葉だけでなく、宗教にもこのことが当て嵌まります。彼等が自分達の神様を原住民に押し付けなかったのは日本には渡来人の神様達よりもっと人間的でやさしい神様達がいたからではないでしょうか。木にも川にも岩にも山にも雲にも夫々生き生きとした神様が宿っていたからだだと思います。日本の各地でお祭りの時に繰り出す神輿(みこし)の歴史をみると、皆遥々やって来た外国の神様達が、昔から住んでいた日本の山や川の神様達に結婚の申し込みをした物語を行事化した物です。ある時は異国の神様は海から日本の浜についてその裏山に住んでいた神様に求婚したり、近くに海が無い所では、例えば祇園祭の神輿行事の様に異国の神々は川をのぼって山奥の神様に求婚したのです。私がここでいう当時の日本の神々はアマテラスの様な近代神々のことを言っているではありません。弥生時代の国家形成時の特定の部族の権威を理由付ける為の古事記や日本書紀に出てくる神々のことではないのです。縄文人にはこんな上と下、縦の関係の神様など必要ではなかったのです。彼等の神々はみんな平行に縄文人と同格で同次元に存在していました。渡来した神々は政略的匂いはするものの、日本の神々に頭を下げたのです。いつか又書きますが弥生時代の権力者が採用した「古事記」に出て来る日本神話がギリシャの神話に実に細々した点まで生き写しと言うことは、日本神話は日本で生れたのではないことを如実に示しています。そして近代日本神話はギリシャだけでなく、インド・ポリネシア諸島の神話、例えば山幸海幸の話等にも極めて似ているのです。日本民族学の父柳田国男は伊良子岬海岸で見つけた椰子の実にこうした外国から押し寄せてきた文明文化の波を身を持って感じ取ったのです。海岸に流れ着いた椰子の実の話を用いて書いた藤村の詩「椰子の実」のロマンや感傷はなかったのです。

私は日本文学等の知識に疎いものですが、大和言葉による日本の歌を聞き、歌うことに無常の喜びを感じます。心が和みます。詩人山頭火は芭蕉の足跡をたどりながら素晴らしい詩を多く残しましたが、彼の旅の日記のなかで、

「古池や蛙とびこむ水の音  
\_\_\_\_\_ 蛙とびこむ水の音  
\_\_\_\_\_ 水の音  
\_\_\_\_\_ 音

芭蕉翁は聴覚型の詩人、音の世界」

と記しているそうです。芭蕉の聞いた音は一瞬にして静寂の中に消えたにしても、この音は芭蕉が残してくれた言霊の力で今でも我々の心に聞こえています。究極の音です。芭蕉や山頭火の詩の中に漢字は出てきますが、全部日本語の訓読みです。大和言葉の世界は漢字を沢山使って音読みする外向きの姿でなく(軍歌や旧制高校の校歌・塾歌などがその例です)、またカタカナ外国語を入れない、内面に深く心を開か

せる縄文人の言葉であり、それゆえに我々日本人が後世にも残して行きたい言葉であり歌であると思うのです。渡辺昇一氏の言葉をお借りすれば、“大和言葉は・・・説明も何もいらぬ。これは静かな、魂の奥の奥からくる、まことにこまやかな感動である”ということです。私が大和言葉の歌に拘り、日本語だけを使ったバラード調の歌にこだわりたいのにはこんな意味があるのです。



## 関連団体コンサート案内

### ♪日米合同合唱祭

2010年4月9日(金) 午後8時 \$20

War Memorial, Herbst Theatre

401 Van Ness Ave, San Francisco, CA 94102

2010年サンフランシスコ日本町さくら祭りの一環

在サンフランシスコ日本国総領事館後援

(咸臨丸来航150周年記念事業)

アメリカ合同合唱(混声) 指揮:外山浩爾氏

America The Beautiful、待ちぼうけ、

故郷(「ふるさとの四季(混声版)」より)

日米合同合唱(混声) 指揮:外山浩爾氏

鳥が、きみ歌えよ、夕焼小焼

参加グループ:

日本:小田原男声合唱団・葛飾合唱連盟&千代田レディース

世田谷合唱連盟・板橋合唱連盟

北カリフォルニア:Choral Cosmo・Chorale May・Ensemble

Shiki・Harmony '84・SF Forest Choir

南加:さくらコーラス・コスモス・LA グリー・カペラオーパス

### ♪Choral Cosmo 第11回定期演奏会

2010年2月20日(土) 午後7時

Prince of Peace Lutheran Church, Saratoga

12770 Saratoga Ave., Saratoga, CA 95070

### ♪さくらコーラス コンサート

2010年2月 小コンサート

2010年6月 定例隔年演奏会

### ♪Union Church ベネフィットコンサート(Harmony'84も出演)

2010年3月13日(土) 午後3時

Union Church of Cupertino

20900 Stevens Creek Blvd., Cupertino

### ♪Harmony '84 第26回定期演奏会

2010年5月

Aldersgate United Methodist Church, Palo Alto

4243 Manuela Ave., Palo Alto, CA 94306

### ♪SFFC、Chorale May、アンサンブル四季 定期演奏会

2010年5月

Pine United Methodist Church, San Francisco

426 33rd Ave., SF



## 休憩室

今回は、北カリフォルニア日本合唱連盟の沿革(前号からの続き。2006年6月～2009年12月。)を簡単に紹介します。

### ◆第1回合唱祭(First Choral Festival)/北・南合同合唱祭

2006年6月3日(土) 午後3時

San Francisco Main Library Koret Auditorium

合同合唱曲 指揮: Tony Quartuccio 氏 伴奏: 太田智香子さん

「川の流れるように」「大地讃頌」「待ちぼうけ」

司会進行: 中川淳子氏

参加6グループ: Choral Cosmo・Chorale May

Chorus 19<sup>th</sup>・Ensemble Shiki・Harmony '84・SF Forest Choir

南加日系合唱連盟より約50人が参加。

打ち上げ会: コリア・ハウス一階ホールにて。

### ◆第16回ボード・ミーティング(2006年7月21日(金))にて

Chorus 19<sup>th</sup> 脱退。連盟加盟は5グループとなる。

### ◆第19回ボード・ミーティング(2007年3月2日(金))にて

Sakura Chorus 加盟。連盟加盟は6グループとなる。

### ◆第二回合唱祭(Choral Festival II)

2007年9月30日(日) 午後3時

Santa Clara University リサイタルホール

参加6グループ: Choral Cosmo・Chorale May・Ensemble Shiki・

Harmony '84・Sakura Chorus・SF Forest Choir

合同合唱曲 指揮: Tony Quartuccio 氏 伴奏: 太田智香子さん

「流浪の民」「さくらさくら」「America The Beautiful」



第2回合唱祭 写真提供: 山内純子さん

### ◆合唱祭 2008 (Japanese Choral Festival)

2008年10月19日(日) 午後3時

Skyline College Main Theater

参加5グループ: Choral Cosmo・Chorale May

Ensemble Shiki・Harmony '84・SF Forest Choir



合唱祭 2008 写真提供: 本多郁子さん

### 合同合唱曲

百万本のバラ 指揮 平野さん 伴奏: 中江さん

Sing 指揮 ハミルトンさん 伴奏: 太田さん

椰子の実 指揮 三浦さん 伴奏: 天井さん

レセプション有り。

後援: College of San Mateo, Skyline College

在サンフランシスコ日本国総領事館

### ◆By Laws(規約)施行

第29回ボード・ミーティング(2008年8月15日(金))にて

### ◆技術部創設

第33回ボード・ミーティング(2009年3月20日(金))にて

### ◆親睦コンサート

2009年9月27日(日)午後3時 Rossmoor, Fireside Hall

合同演奏なし。レセプション有り。

後援: Japanese American Club of Rossmoor

### ◆連盟有志賛助参加行事

・SF さくら祭り 千代田コーラス発表

2007年4月21日(土) 指揮: 三浦さん、伴奏: 太田さん

・LA メンズ・グリークラブ・コンサート

2007年6月24日(日) コーラルメイから約10人

・南加日系合唱連盟主催「第三回合唱祭」

2008年6月15日(日) 約15人参加 指揮: 三浦さん

### ◆歴代役員一覧

	会長	副会長	副会長	書記	会計	渉外
2004—2006	二川	本多	古田	西田	小川	
2006—2007	本多	上田	古田	八木	西田	二川
2008	賀川	上田	久保田	八木	西田	
2009	賀川	上田	黒田	八木	西田	

By TY、協力: 二川丈夫

お知らせ: 連盟便り第1号から掲載の、休憩室「連盟沿革ざっとおさらい編」は、今回を持ちまして完了いたします。

### ——◇ 編集後記 ◇——

新春の夜は群青に澄んで疲れた目に心地よい。東の空にはオリオン座。冬の大三角。♪オリオン舞い立ちすばるはさざめく・・・、♪オリオンはたかくうたひ・・・、♪さらば昴よ・・・、♪きみにも見えるウルトラの星・・・、♪星屑のステージ・・・、♪星は何でも知っている・・・、♪星屑分けて町を離れて・・・、♪空に星があるように・・・、♪見上げてごらん夜の星を・・・、♪星降る夜は窓の明かり消して静かに静かに星のささやき聴こうよ・・・。思わず、遠吠え・・・はしないけれど、気持ちだけ、歌声よ天まで響け(思いつきピアノニッシモで!)。

今夜の空はまるで冬の海原のよう。星は見えないし、♪泣いているよな夜だけど・・・心の窓に灯火を・・・点して、窓打つ嵐も降り出した雨も、自然の子守唄。それにしても少し寒いですね。

八木妙子

次号は3月末頃発行の予定です。本連盟だよりへの投稿を募集しております。 連盟だより 新年号(第4号) 発行人 賀川正人